



はお持ち帰りいただけます。「東京砂漠」は、かつて会田誠が立ち上げた極小アートサロン・バー「芸術公民館」として3日間限定復活し、会田誠らが日替わりバーテンダーとして来場者をお迎えます。

さらに、カルチャー×ファッション好きには外せない歌舞伎町のコアスポットTHE FOUR-EYEDが会場に加わりました。ぼく脳による「フォー横間市場」をお楽しみください。

東京最大・最後の歓楽街である歌舞伎町で開催されるアンダーグラウンドな芸術祭「BENTEN 2 Art Night Kabukicho」、ぜひ、ご来場ください。



ARTIST やなぎみわ 安田登 金沢霞 渡邊尚 JanMah DOMMUNE 宇川直宏 ∈Y∋ COSMIC LAB  
VMO Merzbow 菊地成孔 大谷能生 飴屋法水 新種のImmigrationsB x 野宮真貴 MES  
三好彼流 齋藤帆奈 唐組 稲荷卓央 福本雄樹 原田つむぎ 山本十三 佐藤舞希子 三野新 尹苑  
麻生子八咫 下司悠太 GROUP 吉見俊哉 卯城竜太 伊東豊雄 会田誠 岡田裕子 岡啓輔  
布施琳太郎 トモシ 平山匠 THE COPY TRAVELERS O九一四 KANE-ZANMAI 金三昧  
存在飯店 コウシンキョク 高瀬川モニタリング部 山中suplex 玄人の乱 風のひと、Pylon Shop  
satokai publishing :- ) ストミック 村上豪 (パンクロッカー労働組合・赤い暴動バンド)  
青い風よ (Aokid+酒井風+よだまりえ) 今尾拓真 (Ft. 菊池航, 田上碧) M集会  
素人の乱 残党ラジオ Modern Angels トモ都市美術館 浅間温泉だらぶ荘 モテギミコ  
透明輻射 芳賀菜々花 ぼく脳 AND MORE...

CURATOR Chim↑Pom from Smappa!Group 山本裕子 涌井智仁 池田佳穂 磯村暖

 都市の再野生化  
URBAN REWILDING  
BENTEN 2 ART NIGHT KABUKICHO

1-3 NOV / 2025

## Artist

やなぎみわ／安田登／金沢霞／渡邊尚／JanMah／DOMMUNE／宇川直宏／∈Y∋／COSMICLAB／  
VMO／Merzbow／菊地成孔／大谷能生／飴屋法水／新種のImmigrationsB x 野宮真貴／MES／  
三好彼流／齋藤帆奈／唐組／稲荷卓央／福本雄樹／原田つむぎ／山本十三／佐藤舞希子／三野新／  
尹苑／麻生子八咫／下司悠太／GROUP／吉見俊哉／卯城竜太／伊東豊雄／会田誠／岡田裕子／岡啓輔  
輔／布施琳太郎／トモシ／平山匠／THE COPY TRAVELERS／O九一四／KANE-ZANMAI 金三昧／  
存在飯店／コウシンキョク／高瀬川モニタリング部／山中suplex／玄人の乱／風のひと、／  
Pylon Shop／satokai publishing:-)／ストミック／村上豪(パンクロッカー労働組合・赤い暴動バンド)／青い  
風よ(Aokid+酒井風+よだまりえ)／今尾拓真(Ft. 菊池航, 田上碧)／M集会／  
素人の乱 残党ラジオ／Modern Angels／トモ都市美術館／浅間温泉だらぶ荘／モテギミュ／透明輻射／  
芳賀菜々花／ぼく脳 ...and more!

## Curator

Chim↑Pom from Smappa!Group、山本裕子、涌井智仁、池田佳穂、磯村暖

## テーマ:都市の再野生化

「100年に一度」と称される大規模な東京の再開発は、劇的な改造を通じて街の秩序を強化する一方で、生物多様性や「都市の野生」を排除してきた。しかし、「夜の街」歌舞伎町は異質である。再開発と並行して、トー横や立ちんぼ、ネズミの爆発的増加、悪質ホストの問題など、さまざまな「不都合」が目立つようになった。

歌舞伎町は、東京で唯一、再開発を契機に「再野生化」している街だと言えるだろう。

さまざまな不幸が報道される事態である一方で、ここは戦後の闇市からアングラ文化、暴力の排除といった治安維持のいたちごっこに至るまで、常に制度の隙間を再生産してきた街でもある。資本を受け入れつつ狂乱化する、その底が抜けたような破壊衝動と開放性は、均一化する東京において稀有なアイデンティティを示し、皮肉にも最も賑わう街となっている。「野生」の歴史と現在性を、奇しくも再開発と足並みを揃えて誕生した多くのBENTENの会場から検証してみたい。

\* 本テーマは、都市社会学者・仙波希望氏との会話を引用したものである

Chim↑Pom from Smappa!Group

## 会場(歌舞伎町地区一帯)

### 王城ビル

新宿区歌舞伎町1-13-2

<https://ohjo.jp/>



### WHITEHOUSE

新宿区百人町1-1-8

<https://7768697465686f757365.com/>



### 新宿歌舞伎町能舞台

新宿区歌舞伎町2-9-18 ライオンズプラザ新宿2階

<https://nohstage.com/>



### 東京砂漠(旧芸術公民館)

新宿区歌舞伎町1-3-10 T&Kビル3F

<https://sunadokei-sandbox.studio.site/>



### デカメロン

新宿区歌舞伎町1-12-4 2F

<https://decameron.jp/>



### THE FOUR-EYED

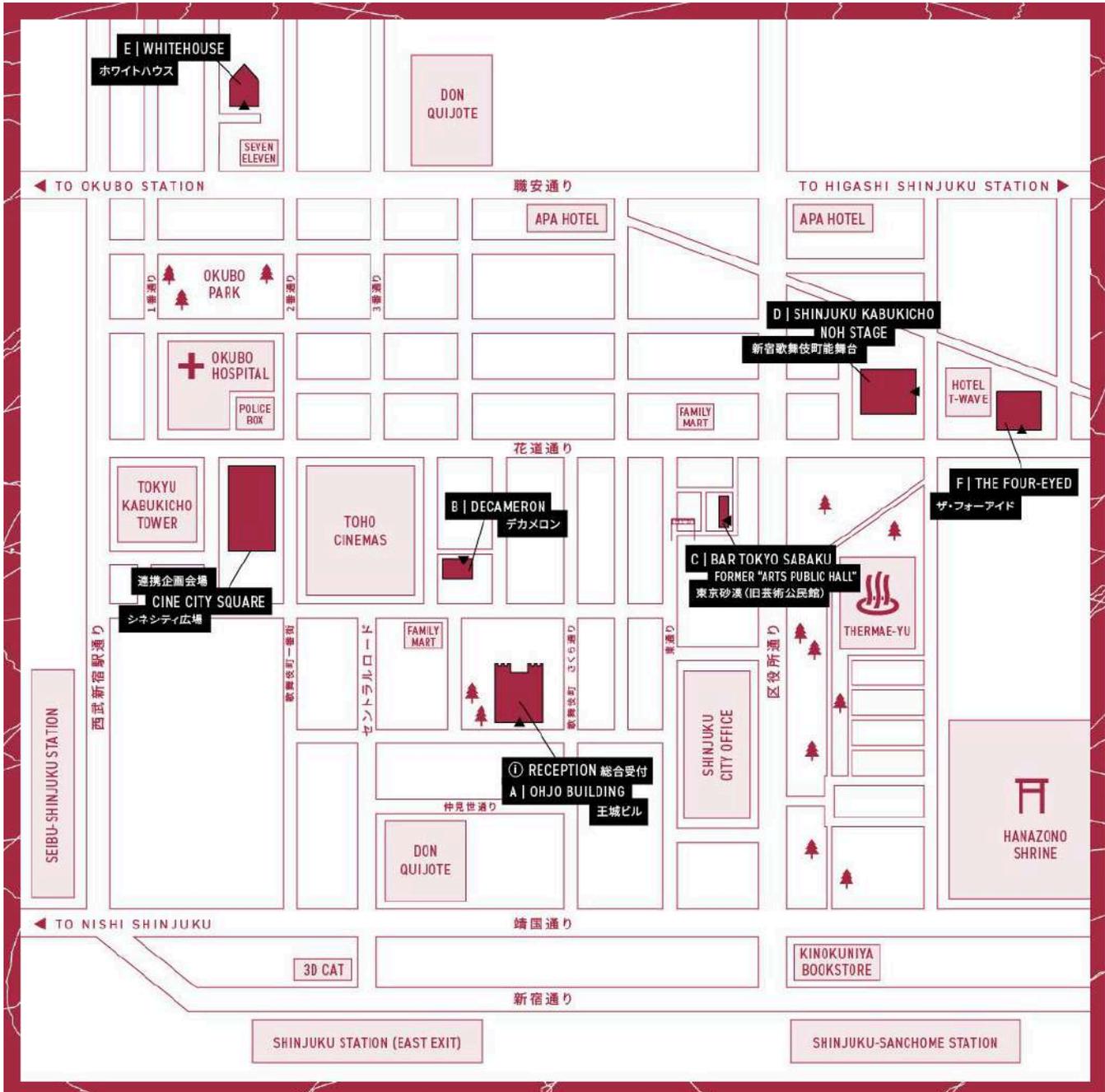
東京都新宿区歌舞伎町2-8-2 パレードール歌舞伎町1F

<https://www.thefoureyed.shop/>



※シネシティ広場にて歌舞伎超祭2025を同時開催(11/2、11/3)

## 会場マップ



※当日チケットのご購入は、王城ビルのみで行います。また、オンラインでチケット購入済みの方も、王城ビル受付にてチェックインを行います。

ご来場の方は、最初に必ず王城ビル受付へお越しください。

プログラム:王城ビル

やなぎみわ

「ムネーメー」[展示]



髑髏を投げ続ける、木製の「投てき機」は、ハムレットの墓掘りのシーンのための道具であり、実際に2019年のやなぎの個展「神話機械」のパフォーマンスで使用された。ムネーメーは、ギリシャ神話の三姉妹のひとりで「記憶」を司る女神。他の2人の姉妹は、それぞれアオイデー「歌」、メレテー「演出」である。

会場:王城ビル 3F

日時:全日(11/1(土)15:00-5:00/11/2(日)15:00-5:00/11/3(月・祝)15:00-23:00)

料金:BENTEN2 チケット

プログラム: 王城ビル

生きられた新宿  
「状況」劇場 [展示] [パフォーマンス]



1975年にMoMAで開催された「新宿」展を起点に、3会場で展開される「生きられた新宿」展の一会場として、批評家・多木浩二の考察と新宿で生じたアクションのアーカイブを交差させる演劇的展示を行う。唐十郎率いる「状況劇場」のタイトルを再解釈し、唐組『紙芝居の絵の町で』で用いられたセットを中心に構成。パフォーマンス的空間を創出しつつ、新宿という都市を状況の舞台と捉え、その劇場性を可視化する。

会場: 王城ビル 2F

日時: 全日(11/1(土) 15:00-5:00 / 11/2(日) 15:00-5:00 / 11/3(月・祝) 15:00-23:00)

※パフォーマンス時間等の詳細は後日発表します。

料金: BENTEN2 チケット

出展: 唐組、山本十三 ほか

パフォーマンス出演: 稲荷卓央、福本雄樹、原田つむぎ、佐藤舞希子、三野新、尹苑 ほか

※本展示は、新宿の3会場で構成される「生きられた新宿」の一環として開催されます。

生きられた新宿 <https://www.ikiraretashinjuku.com/>

1925年から2025年までの100年間にわたる新宿の変遷を辿りながら、都市と人間の関係性の本質的な変容を探る試みである。1975年にニューヨーク近代美術館(MoMA)で開催された「Shinjuku: Phenomenal City」展で展示されたコンテンツを新宿に巡回させ、思想家の多木浩二らが提起した「生きられた都市」としての新宿の姿を再考し、次の50年へ向かう現在の新宿を新たな視点から記述する。

展示は WHITEHOUSE、王城ビル、工学院大学の3会場で構成され、それぞれ異なる時間軸を担う。BENTENの会場としてはWHITEHOUSEと王城ビルの1フロアが使用される。

プログラム: 王城ビル

## DOMMUNE KABUKICHO [展示] [パフォーマンス] [トーク]



会場: 王城ビル B1F

日時: 全日 (11/1(土) / 11/2(日) / 11/3(月・祝))

料金: BENTEN2 チケット

+プログラムの鑑賞には別途チケットの予約・購入が必要です。詳細は後日公開します。

現代日本のアートシーンの中でもエクストリームな存在感を放つ宇川直宏が、ソーシャルストリームの時代を見据えた新たな文化の発信拠点として、2010年に開局させた日本初のライブストリーミングスタジオ「DOMMUNE」!! 宇川はスタジオで日々産み出される番組の、撮影行為、配信行為、記録行為を、自らの"現在美術作品"と位置づけ、ライフログアートを全うしている。開局以来、世界各国から様々なゲストが来日のたびに出演する唯一無二の文化プラットフォームとして存在し続けるそんなDOMMUNEが、渋谷PARCO9Fの基地「SUPERDOMMUNE」から拠点を飛び出し、17箇所目のサテライトスタジオ「DOMMUNE KABUKICHO」を昨年に続き王城ビルの地下一階にOPEN!!! 「BENTEN 2025」会期中連日ここに籠城し、サイトスペシフィック・コアなプログラムの数々をお見舞いする!!!!

参加アーティスト:

宇川直宏、≡Y≡、COSMICLAB、VMO、Merzbow、飴屋法水、

JAZZDOMINISTERS=菊地成孔x大谷能生、新種のImmigrationsB × 野宮真貴 and more...!

\* 時間・詳細や追加プログラムは追って公開します。

プログラム: 王城ビル

## Polyparallax [展示] [パフォーマンス]



右:「大蹴球」三好彼流(2025)撮影:海野林太郎

会場: 王城ビル 4F

日時: 全日(11/1(土) 15:00-5:00 / 11/2(日) 15:00-5:00 / 11/3(月・祝) 15:00-23:00)

料金: BENTEN2 チケット

アーティスト: 齋藤帆奈、三好彼流、MES

王城ビル4階では展覧会「Polyparallax (副題: Parallactic Visions of the City/ 視差的都市景)」を開催いたします。

本展では、齋藤帆奈、三好彼流、MESの三作家の実践のなかでも特に、非人間的なスケールに支えられつつ、人間の集いと交流の場でこそ立ち現れていく表現を紹介します。効率性を追求しながら発展してきた都市は網目状に広がり続け、その構造は脳内の神経細胞や銀河団にも喩えられます。都市は人工物でありながら自然の産物でもあるのかもしれませんが、しかし、ニューロンの絶え間ない変化や可塑性と比較すると、鉄筋コンクリートの網は私たちのスケールに対してあまりに頑丈すぎるようにも思えます。もし人間が家畜でないのならば、この強固な網目とは別の在り方で、野生の生き物や自然現象が潜り込む余白やネットワークをあらためて感受し、共有していく必要があるでしょう。歌舞伎町という街がとりわけそのような余白を享受できる場所と仮定し、非人間的なスケールと複数の視点が織り重なり「視差的都市景」の極点として浮かび上がってくる、そのような構想のもとに本展を企画します。

プログラム: 王城ビル

## アー横 【飲食】【物販】【ポップアップ展示】【パフォーマンス】【トーク】

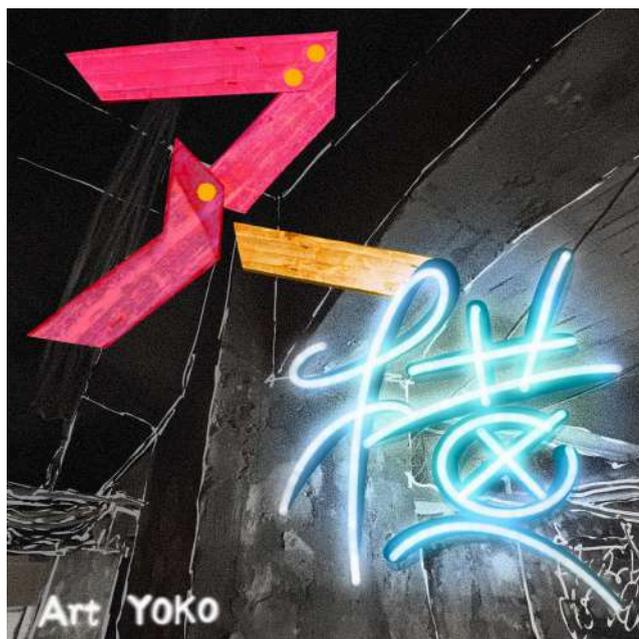


Image by 〇九一四(サ世木+徐美玉)

会場: 王城ビル 1F

日時: 全日(11/1(土) 15:00-5:00 / 11/2(日) 15:00-5:00 / 11/3(月・祝) 15:00-1:00)

※各プログラムの詳細スケジュールは後日公開予定

料金: BENTEN2 チケット

再開発ブームのなかで無数に増え続ける「横丁」に対するオルタナティブな試みとして、アーティストやアートコミュニティ、多様な文化実践者が全国各地から集まり、王城ビル1階で、飲食・物販・ポップアップ展示・パフォーマンス・音楽ライブ・ワークショップ・トークショーなど多彩なプログラムを展開する最もカオスな横丁イベントが開催される。

昼間から明け方まで時間帯によってイベント内容や出店者ががらりと入れ替わり、まるで都市の生態系そのもののように、絶えず変化し続ける体験を提供する。カオスでありながらどこか居心地の良さを感じさせる、そんな何度でも訪れたくなる場を目指す。

さらに最終日は他会場が23時で終了する中、アー横では“ボーナスタイム”として25時まで営業を延長し、ラストにはトークショーの開催も予定している。

出店: (順不同)

KANE-ZANMAI 金三味 / 存在飯店 / 高瀬川モニタリング部 / 〇九一四 / コウシンキョク / satokai publishing :- / 風のひと、 / 山中suplex / 玄人の乱 / Pylon Shop / Modern Angels / トモ都市美術館 / 浅間温泉だらず荘 / and more...

音楽ライブ・パフォーマンス: (順不同)

ストミック / 村上豪 (パンクロッカー労働組合・赤い暴動バンド) / 今尾拓真 (Ft. 菊池航, 田上碧) / 青い風よ (Aokid+酒井風+よだまりえ) / モテギミュ / 透明輻射 / 芳賀菜々花 / and more...

トークショー:

素人の乱 残党ラジオ / and more...

ポップアップ展示: (順不同)

平山匠 / THE COPY TRAVELERS / 〇九一四

**プログラム: 王城ビル**

## 活弁天映画祭 【パフォーマンス】



会場: 王城ビル 5F

日時: 11/1(土) 15:30-16:10、18:30-19:10

11/2(日) 15:30-16:10、18:30-18:10

料金: BENTEN2 チケット

予約: 不要

出演: 麻生子八咫

活弁映画は日本にしかない独自の文化であり、落語など1人語りの芸風や、文楽など対象と分かれる語り芸の伝統、欧米映画の解説需要などから発展したとされる。サイレント映画時代の形態と思われていたが、現代版活弁士たちにより新たな表現として更新されている。脚本に縛られず、ひとつの映像を多様な作品に変容させるのが特徴だ。

今回のBENTEN映画祭では、麻生子八咫(あそうこやた)が活弁を披露する。父・麻生八咫とともに「活弁教室」を主宰し、海外での英語活弁や脚本、演出など、幅広い活動を行う表現者であり、東京大学大学院で文化研究を学んだ貴重な活弁研究者でもある。

プログラム:新宿歌舞伎町能舞台

## やなぎみわ

「黄泉平坂 ～排斥と遊戯～」[パフォーマンス]



「黄泉平坂 ～排斥と遊戯～」は、たわわに桃の実った黄泉平坂(よもつひらさか)で、女神と男神が対峙する舞台である。『古事記』によれば、火の神を生んだ火傷がもとで亡くなった女神、イザナミを追い、あの世に向かった男神、イザナギは、変わり果てた妻の姿に驚いて逃げ出してしまい、追っ手を払うため桃の実を投げつけたという。万物を産み、最後に火や鉱物を産み出した女神は、死の国へ追いやられることになる。黄泉平坂は、男神と女神を、それぞれ生死の領域に分かつ場所となった。この奇妙な「神話」が誰によって語られたのかは不明だが、今回の舞台では、排斥された女神イザナミが、本来の姿を現して男神に対する姿が見どころとなる。男神イザナギを下掛宝生流ワキの名手である安田登が、これまでにイザナミを演じてきた琵琶奏者、金沢霞と、特異な身体表現者である渡邊尚が、2人で女神イザナミを演じる。

会場:新宿歌舞伎町能舞台

日時:11/3(月・祝) ①14:00-(開場13:30) ②17:00-(開場16:30)

料金:公演チケット3,500円(税込)+「BENTEN2 チケット」

公演チケットはArtSticker(<https://artsticker.app/events/98243>)にて販売中です。

- ・全席自由(床座布団)
- ・販売枚数 各回55名
- ・未就学児はご入場いただけません。

上演言語:日本語

作・演出:やなぎみわ

出演:男神イザナギ:安田登(下掛宝生流ワキ方能楽師)

琵琶法師・女神イザナミ:金沢霞(琵琶奏者)

桃園の女・女神イザナミ:渡邊尚(身体研究家・サーカスアーティスト)

音楽:JanMah

照明:藤本隆行(Kinsei R&D)

メイク:吾郷泰英

舞台監督:黒飛忠紀(幸せ工務店)

制作:芝田遥

協力:一色事務所

プログラム:新宿歌舞伎町能舞台

やなぎみわ

「黄泉平坂 よもつひらさか」[展示]



会場:新宿歌舞伎町能舞台

日時:11/1(土)15:00-23:00

11/2(日)15:00-23:00

11/3(月・祝)19:00-23:00

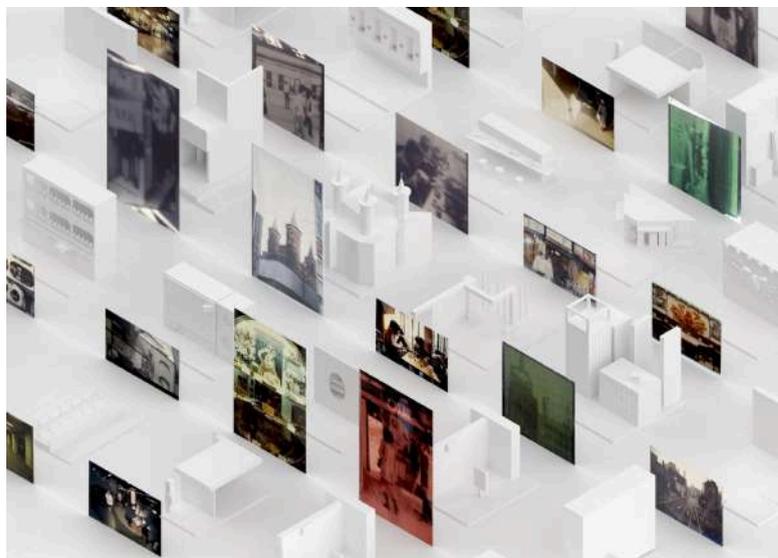
料金:BENTEN2 チケット

深夜の果樹園を大型カメラで写し取った写真作品「女神と男神が桜の木の下で分かれる」をはじめ、女神イザナミの新たな姿を描いたスケッチや立体作品、能舞台上では、能楽師による実演の映像が展示される。

プログラム: WHITEHOUSE

生きられた新宿

「Phenomenal City」[展示][トーク]



撮影: 中川道夫 他

1975年MoMAで「Shinjuku: The Phenomenal City」と題された奇妙な展覧会が開かれる。今日まであまり振り返られることのなかったこの「新宿展」は、当時の西洋と日本の文化的・地政学的なギャップを皮肉的に表現している展覧会であり、ある限定的な視点によって縮減された「TOKYO」を登場させた。この展覧会にヘンリー・スミスやピーター・グラックと並んでディレクターとして招聘されていたのが、批評家の多木浩二である。優れた都市鑑賞者であった多木によって表現された新宿の姿は文字通りキッチュで倒錯的だが、「新宿」をある象徴として表現するための方式は、未だこの「新宿展」以降発明されていないようにも思える。

この展覧会では、変形され、ある種理想化された歪な新宿の姿から現在の新宿、ひいては都市の100年を考えてみようと思う。

「新宿展」に際して多木浩二は2000枚あまりの新宿の写真を残した。プライベートな経験のスナップが並んだこの写真たちには、1975年の多木の視線が折り畳まれている。そこから多木浩二モデルとしての新宿を分析し、展開することで、あり得る都市の姿を描きたいと思う。それは2025年の多木のいない多木の新宿を生成することであり、私たちの知らない私たちの新宿へ身を投企することになるはずである。

会場: WHITEHOUSE

日時: 11/1(土)～11/16(日) 13:00-22:00(※11/16(日)まで開催)

料金: 500円 または BENTEN2 チケット

キュレーション: 涌井智仁

アーティスト: GROUP

リサーチ協力: 吉見俊哉、中川道夫、多木陽介、早稲田大学空間映像研究室

【対談イベント】

11/2(土) 19:00-20:30: 吉見俊哉×卯城竜太 (Chim↑Pom from Smappa!Group) 会場: 王城ビル

11/3(日) 15:00-17:00: 吉見俊哉×伊東豊雄 会場: WHITEHOUSE

※本展示は、新宿の3会場で構成される「生きられた新宿」(<https://www.ikiraretashinjuku.com/>)の一環として開催されま  
す。詳細はP.6をご覧ください。

プログラム:東京砂漠

## 限定復活「芸術公民館」[飲食]



撮影:秋澤玲央

「芸術公民館」は、現在「東京砂漠」が営業している場所において2010年から2012年にかけて、現代美術作家の会田誠が主に若手芸術家に向けて構えたアートサロン・バーでした。時を経て2025年現在に至るまで、会田と縁のある有志が営業形態を変えながら芸術公民館の灯火を受け継いでいます。このたび、BENTEN2にあわせて期間限定で芸術公民館を復活いたします。若手作家からベテランまで、さらには有象無象の美術関係者とともに、歌舞伎町のディープなスポットをお楽しみください。

会場:東京砂漠

日時:全日(11/1(土)18:00-5:00/11/2(日)18:00-5:00/11/3(月・祝)18:00-23:00)

11/1(土)18:00-23:00:会田誠、23:00-5:00:岡田裕子

11/2(日)18:00-23:00:岡啓輔、23:00-5:00:布施琳太郎+トモシ

11/3(月・祝)18:00-23:00:(調整中)

チケット:BENTEN2 チケット

プログラム:デカメロン

下司悠太

生活パーティー feat.みそ仕込み [展示][パフォーマンス]



歌舞伎町にアートスペースとバーを構えるデカメロンでは、「BENTEN 2 Art Night Kabukicho」の一環として、個展「What's Entertainment?」を開催中の下司悠太による「生活パーティー feat.みそ仕込み」の公開生活(実演)を開催します。

下司悠太は、自ら仕込んだ味噌で日々味噌汁をつくり、普段着を自らの手で仕立て、自作の家具で生活してきました。そうした日々の実践や思考を、執筆・美術展示・楽曲制作といった多様な方法で発表しています。

来場者はイベント中、下司と共に「みそ仕込み」に参加し、自分で仕込んだ味噌は持ち帰ることができます。

また、同じ空間で奏でられるDJの音楽を、人間、仕込まれる味噌、麹菌などと共にただ楽しむことも可能です。そして個展会場にはこの期間だけの特別な作品も展示される予定です。

BENTEN 2 Art Night Kabukicho終了後も、それぞれの場所で発酵を続ける「歌舞伎町仕込みの味噌」のその過程をお楽しみください。

会場:デカメロン

日時:全日(11/1(土)15:00-3:00/11/2(日)15:00-3:00/11/3(月・祝)15:00-23:00)

【生活パーティー実演スケジュール】

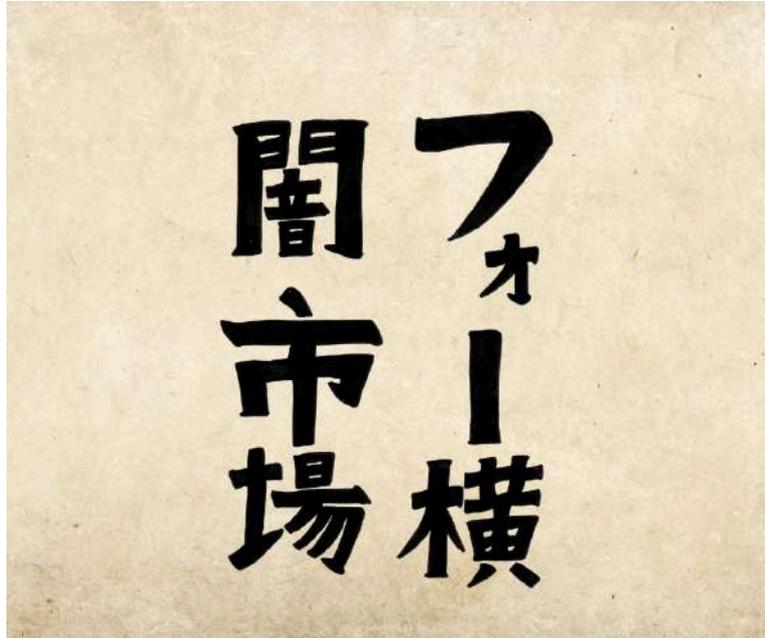
11/1(土)16:00-21:00 /11/2(日)16:00-21:00 /11/3(月・祝)16:00-21:00

“生活パーティー”参加費:BENTEN2 チケットをお持ちの方は参加無料。その他の方は参加費2,500円。

自分で仕込んだ味噌はお持ち帰りいただけます(600ml以上の容器持参推奨)。

プログラム: THE FOUR-EYED

フォー横闇市場 [展示] [物販] [パフォーマンス]



街は物で溢れ、衣類や食品の大量廃棄が問題視される現代。古着の異常な高騰やメルカリ等のフリマアプリの出現など、マーケットが再び野生化したその姿は「闇市」と呼べるだろう。  
この市場では食料や雑貨はもちろん、概念や体験など従来のマーケットでは決して見ることのない物が購入できる。「闇市」がオーバーグラウンドになっている今、この新宿歌舞伎町という街で再び闇市を復活させようと思う。

会場: THE FOUR-EYED

日時: 全日 (11/1(土) 12:00-21:00 / 11/2(日) 12:00-21:00 / 11/3(月・祝) 12:00-21:00)

料金: 不要

アーティスト: ぼく脳

## 開催概要

### ■タイトル

**BENTEN 2 Art Night Kabukicho**

### ■テーマ

都市の再野生化

### ■会期

2025年11月1日(土)15:00-5:00／11月2日(日)15:00-5:00／11月3日(月・祝)15:00-23:00

※会場によって開場時間が異なります。公式WEBサイトやSNS等によりご確認ください。

### ■会場

歌舞伎町地区一帯(王城ビル／歌舞伎町能舞台／デカメロン／WHITEHOUSE / 東京砂漠(旧芸術公民館) / THE FOUR-EYED ほか)

※シネシティ広場にて歌舞伎超祭2025を同時開催予定

■公式ウェブサイト <http://benten-kabukicho.com>

■Instagram [https://www.instagram.com/benten2025\\_kabukicho](https://www.instagram.com/benten2025_kabukicho)

■主催: 歌舞伎町アートナイト実行委員会

■連携: 歌舞伎超祭2025、歌舞伎町EXPANDED、FINALBY ( )、「生きられた新宿」実行委員会

■協賛: 歌舞伎町商店街振興組合、遠山正道、東急株式会社

■後援: 新宿区、一般社団法人新宿観光振興協会

■助成: アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】



■協力: The Chain Museum、株式会社AI AGENT、一色事務所、株式会社 ユニカ

### プロジェクトメンバー

歌舞伎町アートナイト実行委員会: 卯城竜太、手塚マキ、山本裕子

キュレーター: Chim↑Pom from Smappa!Group (卯城竜太、エリイ、林靖高、水野俊紀、岡田将孝、稲岡求)、山本裕子、涌井智仁、池田佳穂、磯村暖

アートディレクション・デザイン: 林靖高 (Chim↑Pom from Smappa!Group)、Smappa!Group

PR: 山本彩、Smappa!Group

プロジェクトマネージャー: 芦部玲奈、中村奈央

## チケット情報

ArtSticker(<https://artsticker.app/events/94416>)にてお得な前売りチケット販売中

チケット	前売り(10/31 23:59まで)	当日
一般(1DAYチケット)	3,000円	3,500円
一般(フリーパス)*3日間入場可	6,000円	7,000円
18歳未満*		2,500円
中学生以下		無料
個人協賛:BENTEN応援チケット		1口 10,000円

※一部プログラムは別途料金のお支払いが必要となります。

※18歳未満の方は、条例により22:00~5:00の入場をご遠慮させていただきます。

※中学生以下の方は保護者の同伴が必要となります。

※障がい者手帳をお持ちの方とその同伴者(1名まで)については、無料とさせていただきます。会場内、また会場までのご移動については、同伴者の方に介助いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※王城ビル、新宿歌舞伎町能舞台、デカメロン、WHITEHOUSE、東京砂漠にはエレベーターがございません。フロア間の移動はすべて階段をご利用いただきます。

※当日に限り何度でも再入場可能です。

※開場時間等に変更が生じる可能性があります。ご来場前に必ず公式WEBサイトやSNSにより最新の情報をご確認ください。

### お問い合わせ

BENTEN 2 Art Night Kabukicho 事務局(歌舞伎町アートナイト実行委員会)

E-Mail: [kabukichoartnight@gmail.com](mailto:kabukichoartnight@gmail.com)

参加アーティストプロフィール

(掲載のないアーティストのプロフィールは後日ウェブサイトに掲載します)

【王城ビル3F・新宿歌舞伎町能舞台】

やなぎみわ

美術作家、舞台演出家。

美術製作と同時に主に野外を中心に舞台公演を行っている。

1993年エレベーターガールをテーマにした作品で初個展。以後、国内外で展覧会多数。2009年第53回ヴェネチア・ビエンナーレの日本館にて個展。2010年に演劇活動を開始し、1920年代の前衛芸術をテーマにした「1924 三部作」を美術館と劇場で公演。2014年には台湾製の特殊車両「舞台車」を製造輸入し、2016年より野外巡礼劇「日輪の翼」(原案・中上健次)を開始。2019年個展「神話機械」が、4都市の美術館を巡回。2021年日台共作の台湾オペラ「アフロディーテ〜阿婆蘭〜」を作演出。2025年六甲ミーツアートにて水上野外劇「大姥百合 オオウバユリ」を上演。時衆や芸能を研究するプロジェクトも行っている。



※写真クレジット無し

【王城ビル2F:「状況」劇場】

一般社団法人劇団唐組

唐十郎が主宰する劇団で、通称「紅テント」とも呼ばれる。唐十郎は1960年代初頭より状況劇場という劇団を主催し、仮設テントによる移動劇場を活動拠点として、全国の主要都市での公演を行ってきた。

その活動は現代都市空間の中に、突如として非日常的な空間を創りだし、独自の演劇世界を出現させることにより社会に大きな影響、刺激を与えた。

1988年より、劇団名を「唐組」と改め、新世代の座員を加え、状況劇場時代から培われてきた技術をさらに発展させ、テント設営、美術、音響、照明、衣裳、その他細部までを出演する座員達自らが受け持ち創造するスタイルで、年に2回、春と秋に一大興行を行っている。

公演場所は状況劇場時代から半世紀50年を経て興行を行い続け、代名詞とも言える新宿花園神社をはじめ都内各所、また大阪をはじめ各都市での紅テント公演も精力的に行っている。



稲荷卓央

1991年劇団唐組に入団。多くの作品で主演を務める。現在、唐組と映像作品の双方で活躍中。近年の主な出演作に、映画「室町無頼」(2025年 入江悠監督)、舞台「花と龍」(2025年 演出 長塚圭史)、舞台「マクベス」(2025年 演出 吉田鋼太郎)などがある。



福本雄樹

1993年7月26日生まれ 兵庫県出身。最近の出演作に、「SIZUKO! QUEEN OF BOOGIE〜ハイヒールとつけまつげ〜」(2025)、演出:白井晃、オフィス300公演「少女仮面」(2025) 演出:渡辺えり、フライングシアター自由劇場「そよ風と魔女たちとマクベスと」(2025) 演出:串田和美、唐組『動物園が消える日』(2024) 猿楽通り沿い・雑司ヶ谷・鬼子母神 など。



原田つむぎ



俳優。1993年生まれ、福島県伊出身・在住。日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒業。在学中の2015年より多田淳之介主宰・東京デスロックに所属し、2019年からは額田大志主宰・ストミックのメンバーとなる。2023年には福島県国見町の地域おこし協力隊に就任し、演劇を通じたまちづくりや場所づくりも行っている。国見町ふつつ演劇部部长。最近の出演作に、ストミック『何時までも果てしなく続く冒険』、滋企画『ガラスの動物園』、多田淳之介演出・森下真樹振付『はまなかあいつで「四季」全楽章を踊る』などがある。

※クレジット:©コムラマイ

### 佐藤 舞希子

東京音楽大学チェロ科卒業後、ドラマ・舞台・映像音楽の制作をはじめ、チェリストとしてのバンド編成、箏や三味線との和洋折衷ユニット、ソロライブ他、後進の育成にも従事。オリジナルにこだわった幅広いジャンルで創作の形を展開し続けている。



※写真クレジット無し

### 山本十三

京都府京都市出身、1988年8月3日生まれ。2013年より役者として活動開始。2019年に初めて劇団唐組に参加し、今に至る。劇団唐組への出演に第63回公演「ジャガーの眼」(2019)、第66回公演「少女都市からの呼び声」(2021)、第70回公演「赤い靴」(若手公演)(2023)がある。



### 三野新

写真家、舞台作家。福岡県生まれ。周縁化された場所やものに残る記憶や風景を繋ぎ、「ここ」と「あそこ」の中間項を見つけ前景化させることをテーマに研究と実践を行う。主に自身で撮影した写真・映像をもとにフィクションを作り、それを自己と他者の身体、様々なメディアを通して発表するなど、領域横断的に活動している。



※photo by Mayumi Hosokura

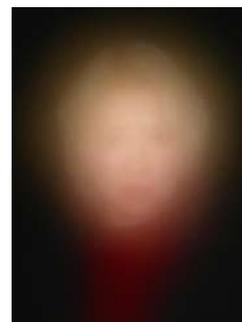
### 尹苑 YIN Yuan

1993年中国上海生まれ。シカゴ美術館附属美術学院(SAIC)視覚伝達専攻を修了後に渡日し、東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了。現在は同大学博士後期課程に在籍。パフォーマンス・インスタレーションを軸としたミクストメディア表現を通じて、他者や環境(外部)から個人意識(内部)への見えない束縛と、内部から外部への条件反射や内在化の過程を具現化する。無意識に重複する習慣やルーティン化された日常行為をモチーフに実践を展開している。

<https://lookslikeinyuan.com/>

<https://www.instagram.com/lookslikeinyuan/>

※photo by 徐千雅



**【王城ビルB1F:DOMMUNE】**

**DOMMUNE KABUKICHO**



現代日本のアートシーンの中でもエクストリームな存在感を放つ宇川直宏が、ソーシャルストリームの時代を見据えた新たな文化の発信拠点として、2010年に開局させた日本初のライブストリーミングスタジオ「DOMMUNE」!! 宇川はスタジオで日々産み出される番組の、撮影行為、配信行為、記録行為を、自らの"現在美術作品"と位置づけ、ライフログアートを全うしている。開局以来、世界各国から様々なゲストが来日のたびに出演する唯一無二の文化プラットフォームとして存在し続けるそんなDOMMUNEが、渋谷PARCO9Fの基地「SUPERDOMMUNE」から拠点を飛び出し、17箇所目のサテライトスタジオ「DOMMUNE KABUKICHO」を昨年に続き王城ビル<sup>1</sup>の地下一階にOPEN!!!「BENTEN 2025」会期中連日ここに籠城し、サイトスペシフィック・コアなプログラムの数々をお見舞いする!!!!

●参加アーティスト: 宇川直宏、≡Y≡、COSMICLAB、VMO、Merzbow、飴屋法水、JAZZDOMINISTERS=菊地成孔x大谷能生、新種のImmigrationsB x 野宮真貴 and more...!

### 新種のImmigrationsB

遠山正道のポエムにギター、ドラム、テルミンが即興的に絡む新種のバンド。野宮真貴との共演曲をはじめ17曲のシングルと1枚のアルバムを配信リリース。大阪・関西万博 null<sup>2</sup>での落合陽一とのコラボや六本木アートナイト、ラッキーフェスなど、表現の場を次々と広げている。

※Photo: mamiko nonaka



### 野宮 真貴 (MAKI NOMIYA)

ミュージシャン/エッセイスト

1960年生まれ。1981年「ピンクの心」でソロ・デビュー。1982年結成のポータブル・ロックを経て、1990年ピチカート・ファイヴに加入。元祖“渋谷系の女王”として「渋谷系」ムーブメントを世界各国で巻き起こし、以来、音楽・ファッションアイコンとしてワールドワイドに活躍。現在はソロアーティストとして活動。音楽、ファッションやヘルス&ビューティーのプロデュース、エッセイストなど多方面で活躍している。40周年記念アルバム『New Beautiful』好評発売中。



Official Site <http://www.missmakinomiya.com/>

Instagram <https://www.instagram.com/missmakinomiya/>

※写真クレジット無し

### 【王城ビル4F】

#### 齋藤帆奈

現代美術作家。多摩美術大学工芸学科ガラスコース卒業後、metaPhorest (biologicalbiomedia art platform)に参加し、バイオアート領域で活動を開始。2025年度より東洋大学総合情報学部助教。東京大学大学院学際情報学府博士課程在籍(寛康明研究室所属)。理化学ガラスの制作技法を活かしたガラス造形や、生物・有機物・画像解析を用いた作品制作・研究を行う。

近年は複数種の野生 粘菌を採取・培養し、制作・実験に活用している。

主なテーマは、自然/社会、人間/非人間の境界の再考と、表現者と表現対象の不可分性。

※撮影: Irina Petrova Adamatzky



#### 三好彼流

アーティスト。2001年生まれ。

東京を拠点にパフォーマンス、絵画、映像、インスタレーションなどを用いて制作。

服が身体に与える影響に興味があり一部を巨大化させた服を用い、そこに他者の体を取り込んでパフォーマンスを行う。主な展示に「大蹴球」(2025/ グリーンヒルズ緑山フットサルパーク, 東京都)、「場の脂肪」(2024/Token Art Center, 東京都)、「地下に繋がってるんや」(2024/ same gallery, 東京都)。主な参加した舞台に「Stillive 2024: Kinetic Net」(2024/ CCO, 大阪府)、山内翔太「汗と油のチーズのように酸っぱいジュース」(2023/KYOTO EXPERIMENT, 京都府)、川口隆夫「バラ色ダンス純粋性愛批判」(2023/ 両国シアターX, 東京都 / ロームシアター京都, 京都府/ 那覇文化芸術劇場なは一と, 沖縄県)、「デッカイダンス」(2022/RforD, MATTER, 東京都)。

※撮影: Roun Kim



### MES



新井健と谷川果菜絵が2015年から共同制作するアーティストデュオ。東京拠点。クラブカルチャーと現代美術を漂流しながら、光や熱をとおして、世界の暗さを静かにあるいは激しく照らすインスタレーションとパフォーマンスを行う。

近年の個展に「祈り/戯れ/被虐的な、行為 P-L/R-A/E-Y」(2024)、「DISTANCE OF RESISTANCE/抵抗の距離」(2021)。グループショーに「MEET YOUR ART FES: Super Spectrum Specification」(2024)、「陸路(スピルオーバー#1)」(2024)、「Reborn Art Festival 2021夏」など。

レーザーVJとして「CLUB SKIN」「WAIFU」「rural」「TECHNOINVADERS」等のパーティー演出やDos Monosワンマンライブの舞台演出を行う。また、ロシアの政治犯についての展覧会「鉄格子の向こう」(2025)や主催パーティー「REVOLIC -Revolution Holic/革命中毒」(2022-)のオーガナイズをはじめ、常にコラボレーティブで交差的な試みを探求している。

※撮影: Ayaka Endo または 遠藤文香

## 【王城ビル5F】

### 麻生子八咫(あそうこやた)

活弁士。父・麻生八咫(やた)の活弁を観て育ち、10歳で浅草木馬亭よりデビュー。2003年第48回文部科学大臣杯全国青年弁論大会・文部科学大臣杯受賞。2008年高校の英語教科書『All Aboard II』(東京書籍)に“A Young Katsubenshi”として紹介される。2016年麻生八咫子八咫の記念切手発売。2020年3月東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。司会、英語活弁、講演会、脚本、演出、諸芸能等、さまざまな舞台活動を行う。2005年より麻生八咫と子八咫の「活弁教室」主宰し、後進の指導にも努める。日本弁論連盟理事。『月刊浅草』副編集長。埼玉県鴻巣市「このす観光大使」。大分県豊後大野市「ふるさと大使」。台東区情報発信サイト『TAITOおでかけナビ』ライター。東京ランニングフェスタ縁結び大使」。 [https://katsuben.com/whats-katsuben/koyata\\_profile/](https://katsuben.com/whats-katsuben/koyata_profile/)



※撮影: 戒康友

## 【デカメロン】

### 下司悠太(げしゆうた)

米とみそ汁の朝ご飯屋「台所」店主。

大学卒業後、会社員として勤めながら家事代行業を兼業。2021年ごろ会社と家事代行を辞め、「反抗的味噌汁」を自費出版。自身が社会人になった頃から始めた、米と味噌汁で生活を成立させることやボイコットのために自作できる服を設計する、等の行動を発表し始める。

主な個展に「鉛筆はけずらないとつかえない」(2024, VALLOONSTUDIO SHIBUYA・東京)、「公開生活」(2023, アトリエサロンコウシンキョク・東京)、「ある日友達に地球のことを教えてと言われた」(2022, SALON DU DAHU・神奈川)、「反抗的味噌汁」(2022, アトリエサロンコウシンキョク・東京)など。主なグループ展に「NEW Days」(2025, Art Center NEW・横浜)、「漂流祝祭日」(2023, 横浜市民ギャラリー・横浜)などがある。



※クレジット無し

## 【東京砂漠】

### 会田誠

1965年新潟県生まれ。社会や歴史、現代と近代以前、西洋と東洋の境界を自由に往来し、常識にとらわれない対比や痛烈な批評性を提示する作風で、幅広い世代から圧倒的な支持を得ている。絵画、写真、映像、立体、パフォーマンス、など表現領域は多岐にわたる。国際展や国内外の美術館での個展やグループ展に参加する傍ら、近年は小説やエッセイ集などの執筆も手がける。

※写真クレジット無し



### 岡啓輔(おかけいすけ)



1965年九州柳川生まれ。一級建築士、セルフビルダー。有明高専建築学科卒業後、会社員、 蔦職、鉄筋工、型枠大工などを経験。また舞踏家・ 和栗由紀夫に師事し踊りを学ぶ。95～2003年に路上から観る画廊・岡画郎を運営。05年、東京都港区三田で蟻鱒鳶ルを着工、20年にわたり友人らと自力建設を行う。著書に『パベル！自力でビルを建てる男』（筑摩書房）。

※写真クレジット無し

### トモシ/Tomotosi

1983年山口県出身。大学卒業後、十数年にわたり建築設計・都市計画に携わる。2014年よりアーティストとしての活動を開始。「都市に偏在する決まりごとに介入する実践」として、映像やパフォーマンスを制作している。また2020年よりトモ都市美術館を開設・運営し、「新しい都市の使い方」を提案している。

※写真クレジット無し



### 布施琳太郎(ふせ・りんたろう)

アーティスト。スマートフォンの発売以降の都市における「孤独」や「二人であること」の回復に向けて、自ら手がけた詩やテキストを起点に、映像作品やウェブサイト、展覧会のキュレーション、書籍の出版、イベント企画などを行っている。

※写真＝竹久直樹

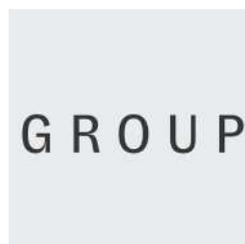


## 【WHITEHOUSE】

### GROUP

建築プロジェクトを通して、異なる専門性を持つ人々が仮設的かつ継続的に共同できる場の構築を目指し、建築設計・リサーチ・施工をする建築コレクティブ。

主な活動として、設計・施工「夢洲の庭」(大阪府、2025)、設計・運営「海老名芸術高速」(神奈川県、2021)、設計・施工「新宿ホワイトハウスの庭」(東京都、2021)、企画・編集「ノーツ」(NOTES EDITION、2021、2024)、設計「EAST EAST TOKYO」(アートフェア会場構成、2023)、グループ展「Involvement Rain/Water passage」(金沢21世紀美術館DXP展、2023)、個展「島をつくる | Planning Another Island」(MYNAVI ART SQUARE、2024)、「手入れ/Repair」(WHITEHOUSE、2021)など。HP: <https://www.groupatelier.jp/>



※写真クレジット無し

## 【THE FOUR-EYED】

### ぼく脳

芸人、パフォーマー、アーティストと肩書きされるマルチな表現者として知られる。

活動範囲はSNSをはじめ、クラブやライブハウス、テレビ、展覧会、アパレルなど多岐にわたり、ナンセンスを極めたアイデアで定型化された表現の脱構築をはかる。

2024年には「金三昧・KANE-ZANMAI」とのタイアップで、「ぼく脳」初の大規模個展をPARCO MUSEUMにて開催。

また、テレビの構成作家も務め、その才能をさらに社会へと広げている。国内外問わず展覧会を開催し、独創的なアートセンスでカルト的な人気を誇る。

※写真クレジット無し

